

放射線の健康影響に係る研究調査事業 令和5年度～令和7年度 総括報告書

研究課題名	放射線による健康影響不安を考慮した AYA 世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築
研究期間	令和5年度～令和7年度（3年間）

	氏名	所属機関・職名
主任研究者	佐治 重衡	福島県立医科大学腫瘍内科学講座・主任教授
分担研究者	桜井 なおみ	キャンサーソリューションズ株式会社・代表取締役社長

キーワード	AYA 世代、甲状腺がん、健康不安、ピアサポート
-------	--------------------------

1. 研究成果報告の概要

福島県においては、2011年（平成23年）3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波、原子力事故（英：Fukushima Daiichi nuclear disaster）が重なり、いまなお復興の途中にあるのが現状である。この事故による健康影響は考えにくいとされてはいるが、福島県では震災時に福島県に居住した概ね18歳以下を対象とした甲状腺検査を実施していることから、必然的に今後も甲状腺がん患者が把握されていくこととなる。環境省の調査では、「原発事故による放射線影響により、子孫に遺伝的な影響が起こる可能性がある」と誤解している人が約4割に上る」と報告されるなど、一般的にAYA世代の心理的／精神健康度（K6）は数値が高くなる傾向があることが既往論文より示されており¹、福島県出身、在住等のAYA世代発症のがん患者においても、同様な心理社会的不安を抱えていることが推測される。

そこで本研究では、こうしたAYA世代発症のがん患者の悩みや不安、孤立感を和らげるための一つの方法として、福島県出身者、在住者などを含めたAYA世代発症の成人がん患者を対象とした心の支援体制（ピアサポート）に着目をし、①福島のAYA世代がん患者のニーズ把握、②AYA世代がん患者へのピアサポート体制の構築、③AYA世代がん患者のピアサポートに関する広報・啓発、を展開するとともに、その成果を運営マニュアルや研修資材にまとめ、医療機関と地域をつなぐ包括的、かつ、継続的なプラットフォームを構築することを目指す。

①の調査結果からは、調査時期が異なるので参考値にはなるが、全国調査と比べて、福島県では、診断・治療、後遺症・合併症、食生活、味覚や嗅覚の変化、家族の将来のことへのニーズが高いことがわかった。アンメットニーズとしては、食生活や体力の維持、妊孕性、医療者を含めた周囲との関係性についての相談機会が少ない可能性が示された。②については、対面、オンラインでのピアサポートを実施した。対面については、患者ニーズが少ないことから、患者の拾い上げと連携を目的としたチームビルディング研修に切り替えて実施した。またオンラインについては毎月一回の開催を継続した。オンラインについてはアバターを用いることで、相談へのハードルが下がり、相互支援の可能性が見えてきたが、科学的な評価には至っていない。③は、研修テキスト、動画、開催に必要な運営マニュアルを作成、ポータルサイト上に掲載することで、今後も継続した支援体制の構築に貢献した。

2. 研究成果報告

2-1 研究開始当初の背景

アメリカの精神学者である E・H・エリクソンが提唱した発達課題の各段階とその心理的側面では、20-39 歳の初期成年期における心理・社会的危機（発達課題）として「親密性と孤独」を挙げ、そこでの関わりとして「友人やパートナー」の重要性が示されている²⁾。しかし、AYA 世代のがん患者（15 歳以上 40 歳未満）は、患者数が少ないことに加え、病理学的分類の多様性から罹患臓器も多岐に及ぶため、患者は複数の診療科や医療機関に分散し、医療機関の中で同世代の患者仲間と出会える機会は、成人がんや小児がんのそれと比べると少なく、社会的にも孤立しやすい。心理・社会的成長期におけるがん罹患は、成人とは異なる多様な相談ニーズがあり、その内容や社会属性、居住地なども成長に応じて移行していくことから、医療機関内と地域が連携をした長期支援が重要である。

福島県においては、放射線影響に対する社会側の誤解や偏見への対処なども考えられることから、当事者ニーズに対応した、よりきめ細かいフォローアップ体制の構築が必要である。

2-2 研究目的

本研究は、福島県在住・出身の成人 AYA 世代がん患者の放射線による健康不安を含む相談ニーズを把握し、その結果を基にピアサポートの在り方と情報発信体制を構築することを目的とする。ピアサポートの対象についても、「甲状腺がん」のみに焦点を当てた支援ではなく、「AYA 世代のがん」というタイトルを掲げることで、視野を広げるとともに相談へのハードルを下げた。

多様な患者の価値観、がん罹患という共通体験をもつ「ピア」と出会うことで、孤独感や孤立感を解消するとともに、潜在化している情報ニーズを把握し、科学的根拠に基づいた共感的支持や情報提供を展開、患者や家族が抱えている不安を軽減することを目指す。成果は、運営マニュアルや養成研修資料にまとめ、集約化とネットワーク化を重視した支援プラットフォームの確立を目指す。

2-3 研究期間内に実施した内容（方法など）

- ・ **1 年目**：初年度は、福島県在住または出身の AYA 世代がん患者を対象に、放射線による健康不安を含む支援ニーズ把握のため無記名 WEB 調査を実施した。調査は、倫理審査を経た上で、県内医療機関で募集し、解析結果をもとに、既往の AYA 世代がん患者調査などの研究と比較した。また、調査結果を基に、対面およびオンラインによるピアサポート体制の構築方針や運営マニュアルを検討し、情報発信を担うポータルサイトの内容整備を進めた。

- ・ **2 年目**：AYA 世代がん患者のピアサポート体制構築と情報発信基盤整備目的に、医療機関での対面型患者サロンとオンライン支援を毎月開催、運営の最適化を図った。参加者は医療機関や WEB、SNS で募集し、年 1 回の養成研修によりサポーターの人材育成を行った。また、前年度の調査より、福島県出身者の心理的／精神健康度（K6）が把握されたことから、全国調査を追加実施した。

- ・ **3 年目**：AYA 世代がん患者のピアサポート体制構築とポータルサイト整備を継続し、得られた知見は運営マニュアルや研修テキスト、動画教材にまとめ、今後も継続して利用可能な体制づくりを進めた。対面型のピアサポートについては、医療機関内での連携強化を重視し、院内および県内拠点病院での AYA 世代のがん支援チームビルディング研修（Crosslink 研修会）を実施し、行政も含めた顔が見える関係づくり、対面型ピアサポートの基盤強化を進めた。

2-4 研究期間内に得られた成果および考察

・1年目：福島県在住または出身のAYA世代がん患者を対象に、心理的／精神健康度（K6）を含む52項目の調査を県内10医療機関で実施した。27名が登録、19名が回答し、二次がんや健康不安、罹患ストレス、人間関係、経済的悩みを把握した。心理的／精神健康度 K6 では、カットオフ値13点を超えるハイリスク群が占める割合は26.3%となった。これは県民調査よりも高い数値となった。結果を基にピアサポート体制の運営方針やマニュアル案を作成するとともに、ポータルサイトの内容を検討した。

・2年目：ピアサポートでは、医療機関内での対面型患者サロンの実施について、現場の医療関係者の協力が得られず当初計画の実施が困難となった。一方、オンライン型のピアサポートはメタバースを活用して毎月開催し、延べ50名が参加した。また、ピアサポーター養成研修会は12名が受講した。

全国のAYA世代がん体験者を対象としたK6集計ではハイリスク群が19.4%となり、AYA世代の心理的／精神健康度を把握することができた。

・3年目：オンライン型のピアサポートについては順調に開催、毎月、一定数の参加（新規を含めて）を得た。各地のAYA世代患者サロンが集客に苦勞しているが、アバターを用いることで、参加へのハードルを下げ、AYA世代を超えた体験者も含めた相互交流が促進された。

・研究期間を通じての成果及び考察

特に心理的／精神健康度 K6 については、これまで「健康な一般市民」を対象とした調査がなく、本研究による調査が初めてとなった。母数に限界があり、詳細な解析にまでは至らないが、比較的高い数値を示すAYA世代において、心理社会的不安への支援はまだ道半ばと言え、福島県「県民健康調査」の実施とあわせた当事者支援は欠かせない。その支援のキーワードとして「AYA世代」という言葉を活用していくこと、オンラインなどデジタル技術を活用していくことが期待される。

2-5 当初計画・目標通り実施できなかった事項とその理由

医療機関内における対面型ピアサポートは、対象者が通院患者に限定され適切な対象集団が少ないことと、現場の医療関係者の協力を得ることが難しく、実施に至らなかった。

心理的／精神健康度である K6 におけるハイリスク群が占める割合の高さの比較については、福島県出身者は全国平均より6.9%高い傾向がみられたものの、母数が少ないことから、科学的な妥当性を検証することには至らなかった。また、放射線影響による後年影響不安、次世代影響不安についても、20代の女性の不安傾向が把握されたが、母数が少なく、評価には至っていない。さらに、放射線リスク認知がどのようなサポートによって変化したかについては検証できていない。今後、福島県出身のAYA世代がん患者を対象にした心理的／精神健康度については、継続して実施することが望まれる。

2-6 当初の計画で予定した成果以外（以上）に得られた事項

チームビルディング研修の実施前は、AYA支援に関する知識や経験の不足、院内の相談ルートの不明確さ、不安や学習ニーズが多く示されていたが、研修後は、多職種が同様の課題意識を共有していることへの安心感や、顔の見える関係性の重要性、具体的な役割や院内体制の課題認識が深まり、「妊孕性温存の啓発」「チーム構築・院内体制づくり」「現在治療中のAYA世代へのフ

フォロー」など、より具体的な行動目標へと変化した。

2-7 まとめ

震災から 15 年が経過をし、当時は乳幼児だった県民も、少しずつ、疫学的にはがん罹患年齢に達していく。福島第一原子力発電所の事故に関連した甲状腺検査の実施により、甲状腺がんの診断を受ける患者は今後も増えていくことが見込まれ、二次検査陽性の段階など早い段階からの心の支援の継続が求められる。本研究で把握された資材などを活用し、医療では解決困難な AYA 世代がん患者が抱える心理社会不安に対しては、同じ体験をした仲間との接点を提供し、実践的な解決策を得られるような環境づくりと、成長過程に応じたシームレスな支援が求められる。また、患者数が少ない年代であることから、その支援のあり方は、対面型によるピアサポートよりはオンラインなどデジタルツールを活用したピアサポートが適切と考えられる。

2-8 引用文献

- 1) Adjei Boakye E, et al. Emotional distress among survivors of adolescent and young adult cancer or adult cancer. Ann Epidemiol. 72:48-56, 2022.
- 2) Montgomery, M., & Arnett, J. (2020). Erikson's Young Adulthood and Emerging Adulthood Today. Journal of Child and Youth Care Work, 25, 206-213.

3. 研究成果の活用方策の提案

●資材を活用した AYA 世代ピアサポート研修会の実施

- ・AYA 世代を対象としたピアサポーター養成研修については、参加者からのニーズはあるものの、テキストや運営マニュアルなど、研修に必要な資材については、これまで存在していなかった。
- ・本研究により、それらの資材を成果物としてまとめることができ、これら資材を活用した自治体でのピアサポーター養成研修会の実施、患者団体が主催するピアサポーター養成研修会の開催と広げていくことが期待される。これらの資材は web サイトから入手可能になる予定。
- ・特に、AYA 世代支援は自治体での基本計画に明記されており、連携が期待できる。

●行政との連携強化、AYA 支援チームビルディング研修の実効性検証

- ・福島県立医科大学内、医大と県内がん診療連携拠点病院、行政を巻き込んだチームビルディング研修の実施により（Crosslink 研修）、県内での AYA 支援チーム体制構築の必要性やフォローアップの必要性、また、データを用いることで人数などを可視化、共有することができた。これにより、継続した AYA 世代がん患者の支援チームづくりが可能となり、今後も継続した研修開催が望まれる。

●メタバースを活用した新たなピアサポート活動、ポータルサイトの活用

- ・アバターを活用したオンラインでのピアサポートは、アピアランスの変化など、対面でのピアサポートに抵抗を感じる患者や、感染リスク懸念がある骨髄移植後の患者などにとっては、「第二の自分」になることができ、支援ツールとして活用できる。デジタル技術の進歩や普及の速度は速く、今後も新しいシステムを用いたオンラインでのピアサポートについては活動を継続したい。

4. 研究成果公表（本研究内容に限る）※下線は主任研究者・分担研究者

●論文

- ・ 桜井なおみ, 駒形千鶴子, 白浜若菜, 木村礼子, 佐治重衡, 放射線による健康影響不安を考慮したAYA世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築 ～福島県出身AYA世代がん体験者の精神不安の現状調査～, 『AYAがんの医療と支援』 Journal of AYA Oncology Alliance, 2026, 6(1), p. 34-40. 査読あり, published

●学会発表

- ・ 桜井なおみ, 白浜 若菜, 駒形 千鶴子, 佐治重衡, 木村礼子, 放射線による健康影響不安を考慮したAYA世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築, 第6回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会, 2024年5月, 東京, ポスター, 一般, 国内
- ・ 木村礼子, 桜井なおみ, 駒形千鶴子, 白浜若菜, 佐治重衡, AYA世代がん患者に対するピアサポート体制の構築 ー福島県におけるニーズ調査, 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025年3月, 神戸, ポスター, 一般, 国内
- ・ 桜井なおみ, 白浜 若菜, 駒形 千鶴子, 佐治重衡, 木村礼子, AYA世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築～クラスター分析を用いたパーソナリティの把握～, 第7回 AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会, 2025年5月, 東京, 口演, 一般, 国内
- ・ 木村礼子, 桜井なおみ, 駒形千鶴子, 白浜若菜, 佐治 重衡, AYA世代がん患者の心理社会的支援ニーズ：全国と福島県の比較から, 第23回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2026年3月, 横浜, ポスター, 一般, 国内

●受賞

- ・ 桜井なおみ, 第6回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会 優秀演題